

磐城大衆新聞

毎月二回 一日、十五日發行
定額 一月一圓十錢
廣告 一行五十錢
發行所 磐城大衆新聞社
長谷川兵衛
福島縣平町村木町
三十六番地

磐城訓盲院の

縣移管は困難？

財政上甚だ六ツケ敷

創設に最も深き意義を有するで他地方の同種校をも移管せねばならぬ結果となり、其額は莫大なり、内容の完備と四圍の状況大なるものの上り、目下是れによりては屢々運動を続けられ等に該當し得る財源なき爲め不且つ盲啞學校の設立の關係もあ可成である云ふ、更に理事長れば相呼應して昨今益々熾烈な水野虎三郎氏は猛烈なる運動及加へつゝあつたが、縣の意圖と陳情を行ふと謂つて居るが先づしては一ヶ年の同訓盲院の經營八分通りは其希望が稀薄である費が五千五百卅八圓を要する譯と消息通は語つて居た。

職員があつても

容易に入れぬ坑夫

石城の失業者は何れへ行く

五大炭礦の嚴選振り

石城地方には目下炭礦失業者七、七百名も殆んど五大炭礦が百名名あるに對し、磐城五大炭礦はシャットアウトされたもので口は約三百五十名の職員あるに、大五炭礦でもそれ／＼聯絡をこもが、はらす坑夫を得るに全く解雇坑夫の相互通信等をして能困難を來してゐる、右は五大炭率のあがらぬ坑夫には一ヶ月試礦はすべて三井(三井)淺野(磐城)用後三週間の給料を與へる(城)大倉(入山)山下(福島)古く解雇してゐる、かくて五大炭河(古河)の大資本家によつて組織では優良坑夫のみを集め坑夫織され、坑夫の採用には嚴重な長屋の収入も一ヶ月七八十圓の検査を行ひ、身長五尺二寸以上、田二町歩耕作の小作人と同握力左廿七、右廿九以上その他等生活程度もよいので争議も起胸圍、体重等に嚴密な制限あり、大資本の鑛山勤怠、性、思想傾向等の調査もは益々繁え、小資本の鑛山は勞なすので仲々希望者があつても働争議その他で年々衰微するに不合格となり目下失業状態にあひ資本主義時代の必然性かま

急告

▲本社の紅燈の巻の記事に某君の某紙にて〇〇を暗示せり、然し吾人は正直に單なる報導に過ぎず、同業者間の平和を攪亂し、自己のみが活きんとする卑劣なる行動せず、敢て釋明す。其の真相は或る機會に報導するべし。
(紫水生)

大衆片々

▲畏れ多し、聖上陛下帝國の經濟界に御しん念あらせられ初登の御用邸工事御延期を仰出あらせられたる、緊張一番いつて緊縮節約約し旨を体せよ
▲如何に泰西の文華生活を模倣せんとするか、三十年の我國史に一大汚点を附せんことを共産黨事件の真相發表さるるやうな事があつてはならぬ、大檢舉だけで安心は尙早、爲政者も、資本家も、その據つて來る根源に對し深慮するの必要があらう
▲賣國的資金を以つて、由良之助の故習に習ふて紅燈明暗の巷に遊興に耽る、黨幹部の醜態は唾棄に價十二分なり、宗教的熱情と、探偵小説的好奇心を以つて邪道に陥つた思想未熟の黨員を懲む

正義は最大の勝利である

平水道起債認可も近し

平水道國庫補助

八萬八千圓交附せらる

一利權會社の下手先を承り、緊健康上必要と認定し、緊縮方針縮政策の美名の下に口實を藉りにも不拘最高率の補助金を交附て、利權に狎れたる民政黨の一さられたるは、起債二十萬圓の部分の町會議員等が旺んに反對認可も近しい内に決定し得る前せんが爲めの反對も遂に大勢に提し見做すも決して過信にあら逆行し、社會を欺き、自己を欺き、過去に於ける自己の保有する、天下の輿論を無視、のみなが過去に於ける自己の保有する、大平市建設上に重大なる關係を有する水道完成の工事費の起債運動を阻害し、或は〇〇迄も敢行する意志は如何なる点も町民よ、起て、是れ等の不合理的なる、非合法的なる町議諸君を監視せよ、鞭撻せよ、御等々の希望は正義の神と俱に、最後

る清流に浄化されて、濁水の眞に到つて必ず勝利の現實を見る價を發揮せんとする機會を失せし事を彼れ等の胸中に頗る寂寥痛を感ずるものであらう。
▲國庫は最大の高率を以つて是此の達成大運動に熱化狂奔せる比佐代議士以下諸君に、吾人は感激の意を示すものである。
▲三萬町民諸君よ、自重して大平市建設に進め!!
痔の高級内服藥
「ダイヤサン」錠
平五 山野邊藥局

別荘から一通信

僕の社友の知人で或る事件で別荘に洋行中である某君から時々感句つて來た。
別荘の御彼岸閑か菓子二つ嵐過ぎヨモス開く別荘の秋咲き初めて早や散りそめぬ秋櫻かな

▲嚴罰と彈壓は決して善導の途ではない、反動思想鼓吹は却つて赤化を挑發するの素因を求む
▲官學に思想悪化の傾向の多いは何を物語るか
▲健全なる思想は常識の上に養はれる専門教育に偏し、官學の弊は深く顧みねばならぬ
▲田中反動内閣時代に、旺んに機に接れ、時に益々を思想の善導を鼓吹せしを記憶す
▲果して反動作用が戦慄させらるる共産黨事件に、彼れ等緊縮内閣の豫算十五億八百萬圓と閣議決定せり。
▲當局者の努力を買ふてやるべし、然し未だ不徹底の憾みなきに非ず
▲民政黨の縣議補欠戦に連戦連勝なりと、政友會の金城蕨地も影薄きを感ず
▲天下の輿論、余りに御銚子に乗る勿れ、と油斷大敵なるを誠む
▲大山郁夫氏主唱せる合法的新勞農黨生る、吾人は其健全なる發達を祈る
▲新勞農黨は所謂合法的政黨として更生の途を求めんとす
▲無產政黨の現出に、徒らに彈壓を加ふるは却つて其の反動の賜なるものあらん
▲眞に天下の公黨として無產者、小市民、小商人、或は工場に、或は農村に、殖殖する時代は遠くはあらず、殖殖する時代の紅葉、晩秋を物語りて人生の寂寥を痛感する事一方ならず
▲晩秋より初冬の期に至る、所謂政治季節に漸く入る。
▲大義ボク堂、不景氣なる故に議會解散は御免と可愛想な泣言を云ふ、命長ければ恥多しと云ふ
▲大政黨の首領よりは大家主より、木堂さんは革新俱樂部部十三の各首領亦た間借り生活の獨身ものが身分相應ならん乎
▲五十七議會は解散、解散は火を見るよりも瞭然、否既定の事實化ならん
▲總選舉後の政界の分野こそ見ものならんと吾人は期待す
▲七千萬の國民に審判され、信任の可否の試験管内に見る各政黨よ、女々しき悲鳴を擧ぐる勿れ
▲常磐礦山界漸く多忙を極むる然るに五大炭礦と誇稱するも坑夫雇傭に七六ツカシキ條件を附す、大度量を以つて失業者を救へ
▲縣參事員、政、民兩黨何れも頭痛鉢巻の態、腐敗した綱に中毒した譯けではあるまい
▲頭の善い人、利權に狎れぬ人、地方部民の爲に、借金を質に入れても働かざるを選定するが第一の賢明なる策ならん
▲郡南某君、愚妻惡母の言に従ふて鼻下長さ三十三センチメートルの距離乎、吾人等の訪問を忌避せり
▲ノ〇〇公の社會人としての最後の時が來た、社會的、精神的、物質的にも机上の空論に

藝妓の花柳病

平 餘り威張れぬが縣下第一位

昭和三年九月一日以来内務省四十一名則ち六十パーセントを令により實施せられたる花柳病、次には若松二十九名、郡柳病豫防法によりて本縣にては山二十七名、二本松二十六名、藝妓、娼妓、酌婦などの健康診察の順であり、福島は七十五名、断を各地方に其日割を定めて行中の二十五名である。

更に酌婦では平の百四十七名、業者に影響する處から當局に於て筆頭で、福島四十九名、郡山でも健康診察の結果の發表を差三十九名、若松三十九名の割合控えてゐる。

本年一月から八月迄に行はれ國民の健康上に由々しき問題たる藝妓並に酌婦の健康診察として、寒心に堪ざるものであれば、藝妓七十名中罹病者。

紅燈の巷より

▲惚れた女が浮氣をしたり、鐵砲を頂きました。妓が愉快に○さされたりして居る、嬉喜びに喜んでの手紙其他十數通の御書や、御警告やら、大衆に非ず藝妓新聞にせよとか、或は彼は天保鏡にならまた二文足らぬ位だから八文には使用し得る、彼等は、天保鏡に非ず、舊國發行のドル紙幣で何の價値もなきものだから、セルロイド製の鼻下長人形とか、亦たはアナタの新聞のお蔭で浮氣をせぬのに、責めセツカンに逢ふたとか、ワタイの○さんは別に三人あるとか、或は仙臺の消印ある葉書で紅燈の参考迄に云ふ投書して来た、其一部分を掲載すると曰く、小生所用有之去る日盃に行き歸り途中にて意外なる人物親子三人連の松島見物團に出遇ひ申候、古き記憶より呼び起せしに其人達は貴地にて睡眠銀行の稱

六〇六番地と申して居ります。本當ですか、御元談は止して下さいね。

▲谷口の秀勇、大統領……君は實に感心だよ、新妓を擁護的態度を以て藝妓道徳を重視して……

▲三島家の菊千代、西の天理教御詣りに毎日、行きなされるが、何か祈願でもあるんですか、夫れにしても此頃東の○さんはドーしたんですかね。

▲吉野家の長松姐さん、榮家の榮姐さん、姐さん様は姐さんらしく新妓を侮辱した様な横暴なる態度はキツト御憤みなさいよ、自稱一流妓の估券にかはりませうと、○さんが口惜しがつて居りましたつて……

▲「咲いて見たとて噂も立たぬ、私しや淋しい御茶の花」此の一文を草してやさん許に送つて毎晩○さんで下さいと無心したのは誰かの○家の○御前か、君は文學藝者だなら或る新妓、を○して○成らすして抱主進推参して彼れは平向きに非ず故に住替を強制的に○の○さん餘りで御座んせう、と新妓は口惜がつてたつて……

▲橘の君江、去る雨の降る午後○で御奮闘したね、あれは誰れの○物なんだよ、指を○する事は御止しなさいよ、野口から元湖月の三勝、平よし町、再び平の懐かし地へ小豊を申します、姥櫻ではな……

▲「わたしや淋しい谷間の紅葉、誰れに折られるあてもない」なんて悲觀其極に達したなんて誰れか、仲家の小清御前ではあるまいよ。

▲○堂病院の敷君、僕は不見轉の藝者を呼んで居るのに毎度書き飛ばされては耐らぬと御不平先生よ、未練があつて絶縁は出来ぬでせうね。

▲竹の家の小菊、去る夜○支

店の奥で、ナが泣いたのだ、何に此の歌を「ないてくれるな夜更けの雁よ、わしも淋しい旅の者」小菊姐さん、旅人を愛して下さいな。

▲仲家の一寸助、古き○郡山を思ふナラ忘れ、今ヂヤ紺屋町の角或る○店へ御通勤曰く「わたしや白菊あなたは黄菊、咲いて嬉しい一つ鉢」近き内ね、ねでせうよ。

▲橘家の筆助姐さん、多年幾多のロマンを遺して懐かしき人の善い平町を後に雁の旅と何處か御榮轉ですと、止めるなら今の内なソです。

▲三好家のよし子、先日は或る所でね「首尾も嬉しい炭つき足して味二人の小鍋立」だつて……御馳走様。

▲仲家の福助、お前か或るク！さんへコンナ葉書を出したのは「戀に破れ私の心、知つて泣くかよ雨の雁」ね、御同情致しますわ。

▲山形家の色子「我身一つの秋にはあらで二人の思案の暮る秋」なんて寂莫たる思ひ惱み且つ苦しむか、最も様の事はなきに非ずでせうか。

▲開花の花丸、先夜は失禮致しましたね、際座敷より君ののぞき聞きました「……時雨降る夜は戀しい膝に、さんざ泣きたい事ばかり」十二分に隣人に○感に掛らぬ程度で泣いて下さいよ。

▲湖月の小南姐さん、○さんはね○でせう御心中御察し致しますわ、○行は右なれば左は先格と来てはね、姐さんの此頃は「思ひ直せ象牙」撥が餘り冷めた小夜時雨ですわね、御城山の夕暮れ告ぐる鐘の響は、餘韻長く短かく、嗚かし御寂し事でせう。

▲谷口の千代駒、去る夜の平館で大洋兒の御見物は御同伴でね御樂み様でしたわ。

▲玉川の政榮、随分タンカも徹底して居りますね、誰もアナ

タを洗髮の政榮なんて申しませんからね……

▲新田町にも歳末気分が満ちたか、新妓を御照會せば、橘家から千代香願る付肉体美の所、有者、生れは江戸ッ兒、前任地は牡丹で有名な須賀川の由、竹の家から小住と申して中肉中体の願るの美人、同家から


何んと申して一人位は御披露目する由。

▲開花からも中年増の某姐さん、の現出ですつて。

▲仲家から元の菊蝶が半戀しさに東京下谷より再度の御目見得とかも承りました、菊蝶が來たら嬉し泣きます○さんもある由。

祝 發 展

和洋銅鐵金物問屋



釜屋商店

平 町 電話 一三九番

土木建築 平 田 町

請 負 業 猪狩菊三郎

土木建築 平 長 橋 町

請 負 業 荒川銀治

土木建築 平 南 町

請 負 業 丹野幹之丞

電話五〇八番

土木建築 平 南 町

請 負 業 只野忠康

平 町 五 丁 目

佐藤齒科醫院

齒科醫 佐藤武之